

MG 「コンピュータリテラシー」のすすめ (履修登録する前に必読!)

【コンピュータリテラシーとは】

現代社会では、コンピュータやインターネットを含むIT (Information Technology: 情報技術) があらゆる分野の基本技術として普及し、学校でも、職場でも、そして家庭でも、ますます重要性が高まっています。コンピュータは日本語では電子計算機と訳されるように、もともとは(たった50年ほど前のお話ですが)複雑な計算をするために開発された道具です。しかしながら、インターネットに代表されるネットワーク技術の発達で、コミュニケーションにも欠かせない道具となっています。明治学院大学での「コンピュータリテラシー」科目群は、IT社会を生きるのに必要な知識と技術を習得することを目標とした科目群です。コンピュータ実習室で、学生一人一人がパソコンやいろいろなソフトウェアを実際に使いながら授業を行い、ITに関する基礎知識と情報処理の考え方を学んでいただきます。コンピュータを使用するというと、難しいと考える学生諸君も少なくはないと思いますが、数学などの予備知識はまったく必要なく、パソコン利用経験がない学生から、経験豊富な学生まで、いろいろなレベル(スキル)に対応した授業が用意されていますので、自分に合った授業を選んで、積極的に学んで下さい。

【コンピュータリテラシーの授業内容】

1年生で履修可能な「コンピュータリテラシー」科目群には、次の3種類の科目が用意されています。

(1) コンピュータリテラシー 1

パソコン初心者向けの情報処理入門の授業です。パソコンの基本操作方法、英文や日本語の文章入力方法、インターネットの使い方、電子メールの使い方、レポート作成に必要なワープロソフト(Word)の使い方などを学びます。パソコン利用経験がほとんどない学生、パソコンを使用した情報処理の方法を系統的に学んだことのない学生諸君には、この科目の履修をお勧めします。半年間完結型の授業になっており、取得単位は2単位です。

(2) コンピュータリテラシー 2

パソコンを使用した情報処理の方法には代表的なアプリケーションプログラムが2つあります。1つは、コンピュータリテラシー1で習得する文章作成(例えば、Word)と、もう1つが、表計算ソフトです。コンピュータリテラシー2は、その表計算ソフト(Excel)の使い方を学ぶ情報処理初級の授業です。表計算ソフトとは、データを表形式で入力して計算処理する機能を持ったアプリケーションプログラムで、ビジネスの場で最もよく使われているアプリケーションプログラムの1つです。実用的なものであると同時に、計算式や関数などを用いてデータを計算処理することを通じて情報処理の基本的な考え方を学ぶことができます。既にワープロソフトが使えるくらいのレベルの人には、この科目の履修をお勧めします。半年間完結型の授業になっており、取得単位は2単位です。

(3) コンピュータリテラシー研究 1A・1B

アプリケーションプログラム自体の基本的仕組みを学ぶための情報処理中級の授業です。プログラムとは、コンピュータに一連の情報処理作業を行わせるための命令の手順書ですが、人間の言語と異なり、プログラム言語というものをういて書かれた極めて論理的なものです。プログラムの基本的な構造は、難しいものではなく、たったの5つの構造しかありません。本科目では、プログラミング経験がない人を対象に、その5つの基本的なプログラムの構造を初歩から学習します。プログラミング（プログラムを書くこと）を通じて情報処理の考え方をより深く学ぶことができます。本格的に情報処理を学びたい人には、是非、この科目の履修をお勧めします。なお、本科目は、原則的に、春学期・秋学期を連続して学ぶ通年科目になっており、取得単位は春学期2単位、秋学期2単位の合計4単位になります。

【コンピュータリテラシーの位置付け】

明治学院大学の「コンピュータリテラシー」科目群は、2単位必修、つまり、卒業するためには必ず最低1科目は履修し、2単位以上の単位を取らなければならないという位置付けになっています。もちろん、それより多く履修することもできます。例えば、1年生で「コンピュータリテラシー2」を履修し、2年生で「コンピュータリテラシー研究1A・1B」を履修することも可能ですし、4年次までに、3科目全てを履修することも可能です。ただし、「コンピュータリテラシー」科目群では、1年次に履修できるのは「コンピュータリテラシー1」、「コンピュータリテラシー2」、「コンピュータリテラシー研究1A・1B」のいずれかです。例えば、「コンピュータリテラシー2」と「コンピュータリテラシー研究1A・1B」の両方を履修したい場合、1年生で「コンピュータリテラシー2」、2年生で「コンピュータリテラシー研究1A・1B」というように、2年間に分けて履修する必要があります。

【コンピュータリテラシーの履修方法】

「コンピュータリテラシー研究1A・1B」は開講されている曜日・時限の中から履修するクラスを選択することができます（心理学部教育発達学科を除く）。「コンピュータリテラシー1」と「コンピュータリテラシー2」は学科ごとに割り当てられた曜日・時限で履修することが定められています。コンピュータ実習室のパソコン台数に限りがあるため、1クラスあたりの定員は30名余りです。まず、履修したいクラスに希望順位を付けて事前に申し込み、希望者が多いクラスは履修許可者が抽選で決定されます。

大学生活は、4年間と限られています。長いようで、短い4年間ですので、自分のスキルにあったコンピュータリテラシー科目を履修して、大学生活、それから大学を卒業してからの生活にコンピュータを用いた情報処理の方法を役立ててください。

※「コンピュータリテラシー1」「コンピュータリテラシー2」「コンピュータリテラシー研究1A・1B」の違いと授業内容については、シラバスで確認してください（シラバスの参照方法についてはp.62を参照）。

